

掃除

香園女史

家屋は日々の掃除を怠らないやうにしなければなりません掃除は實に一家の健康を保つものであつて掃除を致します目的は塵埃を取り除く爲でございますから其心持でしなければなりません學校とか病院等で掃除をする處を見ますと種々の仕方があります先づ室内にある器物を拂つて置きましてそして床の上を掃き暫くして拭きます所もありませんこれは最丁寧な仕方で大抵は床の面に水をまいてあとをばさますそれまでにも手の届きませんときには只はくばかりにしておきます第三の掃除の仕方は最も不完全で御ざいませ折角はじめに拂つておきました處も床をばさました爲めに塵埃かたちまして又々不潔になりますそれゆゑ少

は面倒ではありますけれど床を掃く前に水をまきまして床を濕し塵埃のたちませんやうに致してかさまして掃きますといくらか清潔になり掃除の趣意にも叶ひます今一層丁寧にはさましたあと雑巾にて拭きますと最清潔になりまして宜からうと思ひます併しには大層手數と時間のかゝる事でありますから毎日出來ませんかもしれませんが一週間に一度か或は一月に一度でも大掃除として此掃除を致しましたならばよろしからうと思ひますこれは西洋風の家の掃除の仕方であります日本風の家屋で御座いまして掃除の順序は前申しましたのと同様で御座います仕方が少し違ひます先づ拂塵箒にて戸障子襖をばらひまして其戸障子をすつかりわけはらひそれから床柵器物などを丁寧に拂ひ下をはくので御座います掃きます

には室内にありました器物は静かに側に移しまして其下を掃かなければなりませんすべて部屋の間の方は人の目に見えかねますから自然掃除を怠り易きものでございませす昔から四角の部屋を丸く掃くなど戒めて御座いますか途隅の方とか物陰は疎忽になり易き者で御座いますから氣を付けなければなりませんそれで先づ掃きます一番さきに隅の方とか器物の置いてある所などはさそれから器物は元のところに置き直しまして残りの部分をはくので御座います其はさし出しました塵埃は掃き下しても宜うし御座いますけれども掃き下せば矢張りそちここに塵埃が散りますから成るべく塵取にて集め取る方が宜しう御座います

箒は梭欄箒が一番宜しう御座いますそれがそれについでではめて箒でございませすすべて箒は眞直に立て

使はなければなりません

掃き終りましたならば暫く致しまして即掃きました塵埃の静まりました後床敷居鴨居棚窓縁などを拭くので御座います。この時用ひます雑巾は度々洗ひましてそれを堅く搾り力を入れて拭かなければなりません雑巾のしぼり方ゆるき時は折角拭きました跡に水溜りが出来恰度水を流して洗つた様になりまして部屋の中はしめり拭きました爲めに却て余計に塵埃をつける事になります。又塵埃のたまりし雑巾をよくも洗はないで拭きますと縁や敷居などの隅に塵埃が残りまた拭きました跡に班が出来まして見にくう御座いますから前申した通り雑巾はよくよく洗ひ堅く搾りて使はなければなりません

畳の表換を致しました時には畳表は土の粉にて

眞白ましろになりて居まりますすものですから穢よごれません雜ざ巾きんを水みづでよく洗あらひまして堅かたく搾はりて拭ふくので御座ございます若もしも拭ふかないいで其上そのうへに座まりましたならば着物きものも足袋たびもすぐ穢よごれて仕舞しまひます

極清潔きくせいけつを望のぞむ人でございますと戸障とじょうじ子こまで拭ふきますすがかういふ所ところは洗あらひ出だしました雜巾ざうきんでは障子しょうじの紙かみを破やぶりまたふきました所丈色ところだけいろづきまして手てが届とどきませんで拭ふけなかつた所ところと目立めだちて際さづきなぞ致いたしましてみにくう御座ございますから燥かはきました雜巾ざうきんを使つかひます方ほうか宜よろしうございますこの乾かはきました雜巾ざうきんと申しましたも種々いろくございませうがツヤブキンと申して賣うつて居まりますものがございます是これならば結構けつこうと思おもひます

ガラスを下くだしますすには軟やわかな布片ふれが一番宜いちばんよろしうございますしかし若もし布片ふれにて拭ふきましたばかり

で奇麗きれいになりませんならばアルコールを少せしつつけて拭ふくので御座ございます

すべて人の家いえは塵埃ちんあいの出でますので御座ございます

が一家いっかの内うちでも一番澤山いちばんたくさんに塵埃ちんあいの出でますのは臺所だいどころでございます何なにせかと申まをしますと食物たべものを拵しらへます爲ために使つかひます野菜物やまいものなどより澤山たくさんの屑くずが出て參まります又火またひを焼たきますとはこりか立たちますから度々たびたび掃除そうじをしなければなりません東京とうきょうなどでは家毎いえごとに塵埃箱ちんあいばこを作つくることになりて居まりますから屑くずさへ出でますとすぐにその箱ばこの中なかに入れ臭氣においかたちませんやうに蓋ふたをしておくのでございますしかし塵埃箱ちんあいばこの設もうけのない所ところでは家の周まわりに塵埃溜ちんあいなめを拵しらへまして其所そのとこへ捨すてますが時々塵埃ちんあいを運び出だして掃除そうじを怠おこらないやうにしなければ衛生上えいせいじやう害がいになりま

す又此塵埃溜またこのちんあいなめには屋根やねを作つくる事ことが必要ひつたうでございま

す雨が降りますと其腐敗致しましたものに雨水が  
かゝりまして不潔な汗が地面の中にしみ込みます  
からそれを防ぐので御座います

廁は不潔になり易き處でござりますから拂塵箒  
雑巾箒を別に供へおさまして掃除を怠らないやう  
にしなければなりません

日本では昔から夏冬の二度或は歳の暮に煤掃き  
と申しまして家の中の道具疊建具まですつかり出  
しまして大掃除を致します是は誠によき習慣でござ  
います併し此大掃除を今一層度敷を殖やしまし  
て學校などにて致しますやうに二月或は三月に一  
度位日を定めて致しましたならば宜しからうと思  
ひます

昨日といひ今日と暮らしてあすか川

流れて早き月日なりけり

今 昔いろは料理

石井泰次郎

(ぬの部)

ぬたあへの拵やう 古法

酒のかすを能く播盆にて摺て、大豆の粉を入れ、  
花かつをを摺りて掻まぜて、魚に酢をかけてあへ  
るなり、何の魚も同じ仕方にてよし

又は大豆の粉なき時は、けしか、胡麻かを入れて、

糟と酢と酒にてあへる

又青くするには、蓼なとすりまぜてよし

大きな魚は中うち中のほれつぎの身を焼て入るゝ

もよし

○花かつをとほ、かつぶしを正身ばかりにして、  
小刀にて細くけづりたるものなれど、こゝにては  
たい鉋にてけづりたるをすりばちに入てすりたる